

2019年3月期（第119期）第2四半期
（2018年4月1日～2018年9月30日）

芦森グループ決算説明資料

連結業績は、売上高 27,821百万円、
営業利益 97百万円、経常損失 34百万円、
親会社株主に帰属する四半期純損失 402百万円となりました。

2018. 11. 9

芦森工業株式会社

1. 2019年3月期（第119期） 第2四半期実績

2019年3月期 第2四半期は 前年同期比で増収減益

| | 2017年3月期 2Q累計実績 (百万円) | 2018年3月期 2Q累計実績 (百万円) | 2019年3月期 2Q累計実績 (百万円) | 前年同期比 | |
|--------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------|----------|
| | | | | (百万円) | 増減 (%) |
| 売上高 | 22,847 | 26,159 | 27,821 | 1,662 | 6.4% |
| 営業利益 | 64 | 394 | 97 | ▲ 296 | ▲ 75.3% |
| （営業利益率） | 0.3% | 1.5% | 0.4% | ▲ 1.2ポイント | - |
| 経常利益 | ▲ 426 | 600 | ▲ 34 | ▲ 635 | ▲ 105.8% |
| 特別損益 | 159 | ▲ 470 | ▲ 37 | 432 | - |
| 税金等調整前 当期純利益 | ▲ 267 | 129 | ▲ 72 | ▲ 202 | ▲ 155.5% |
| 親会社株主に 帰属する 四半期純利益 | ▲ 685 | ▲ 368 | ▲ 402 | ▲ 33 | - |

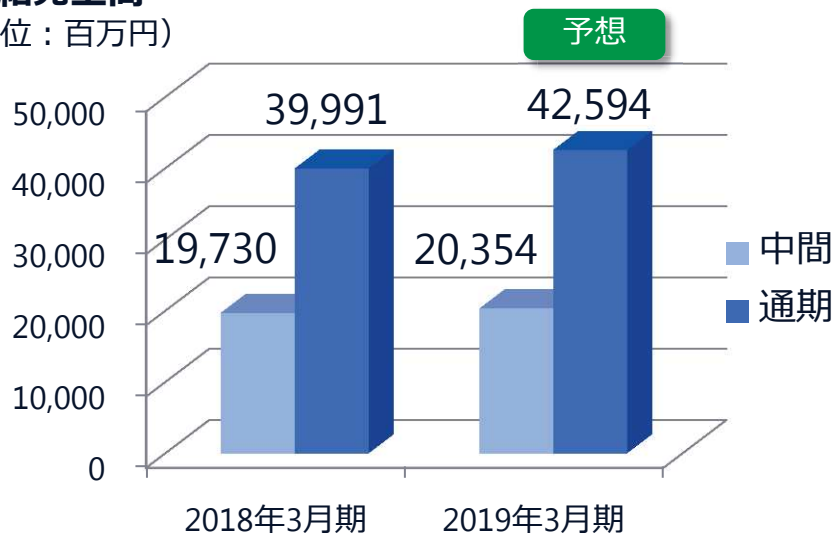
増収減益の主な要因

- ・ 機能製品事業におけるパルテム関連が好調に推移したこと等により増収となったが、自動車安全部品事業における原材料費および加工費の増加等により、営業減益となった。
- ・ 前年同期に比べ為替差益が減少したことや支払利息が増加したこと等により、経常減益となった。

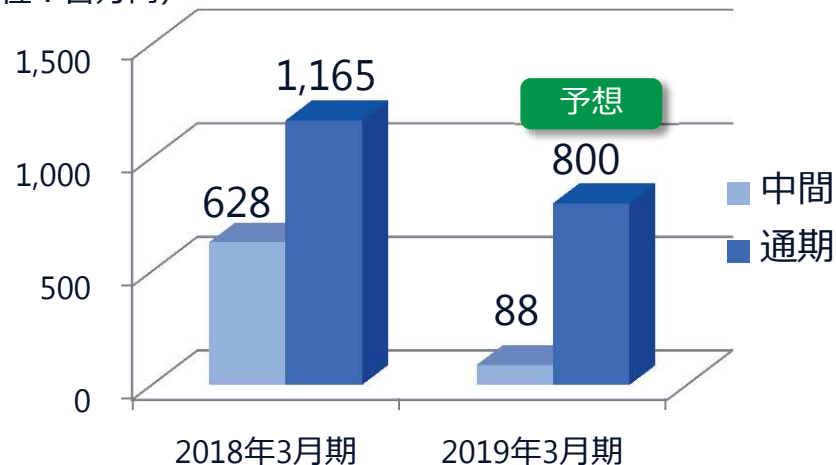
| | | 2018年3月期 2Q累計実績 (百万円) | 2019年3月期 2Q累計実績 (百万円) | 前年同期比 | |
|-------------------|---------|-----------------------------|-----------------------------|-----------|---------|
| | | | | (百万円) | 増減(%) |
| 自動車 安全部品 事業 | 売上高 | 19,730 | 20,354 | 624 | 3.2% |
| | 直接営業利益 | 628 | 88 | ▲ 539 | ▲ 85.9% |
| | (営業利益率) | 3.2% | 0.4% | ▲ 2.8ポイント | - |
| 機能製品 事業 | 売上高 | 6,425 | 7,463 | 1,037 | 16.2% |
| | 直接営業利益 | 366 | 685 | 318 | 87.0% |
| | (営業利益率) | 5.7% | 9.2% | 3.5ポイント | - |
| 不動産収入、 本社経費他 | 売上高 | 3 | 3 | ▲ 0 | ▲ 1.6% |
| | 直接営業利益 | ▲ 601 | ※ ▲ 676 | ▲ 75 | - |
| 合 計 | 売上高 | 26,159 | 27,821 | 1,662 | 6.4% |
| | 営業利益 | 394 | 97 | ▲ 296 | ▲ 75.3% |
| | (営業利益率) | 1.5% | 0.4% | ▲ 1.2ポイント | - |

注記※ このうち各事業に配賦しない本社経費は ▲679百万円

連結売上高
(単位：百万円)



連結営業利益
(単位：百万円)



2019年3月期 第2四半期累計

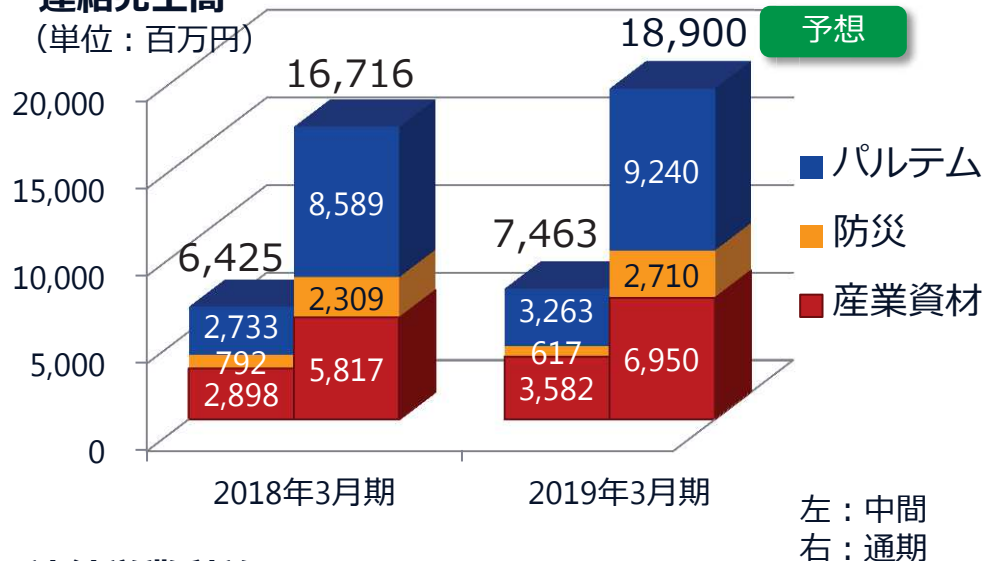
売上高 (前年同期比 + 3.2%)

営業利益 (前年同期比 ▲85.9%)

- シートベルト**
 インド・メキシコの現地法人において売上が減少したものの、国内、タイ・韓国の現地法人において売上が増加。
- エアバッグ**
 中国・韓国の現地法人において受注車種の販売が好調に推移したことにより、売上が増加。
- 内装品その他**
 国内、メキシコの現地法人において受注車種の販売が低迷したものの、中国の現地法人において順調に推移し、売上が増加。
- 損益面**
 国内とメキシコの現地法人において、主要顧客の減産の影響や原材料費および加工費の増加等により、減益。

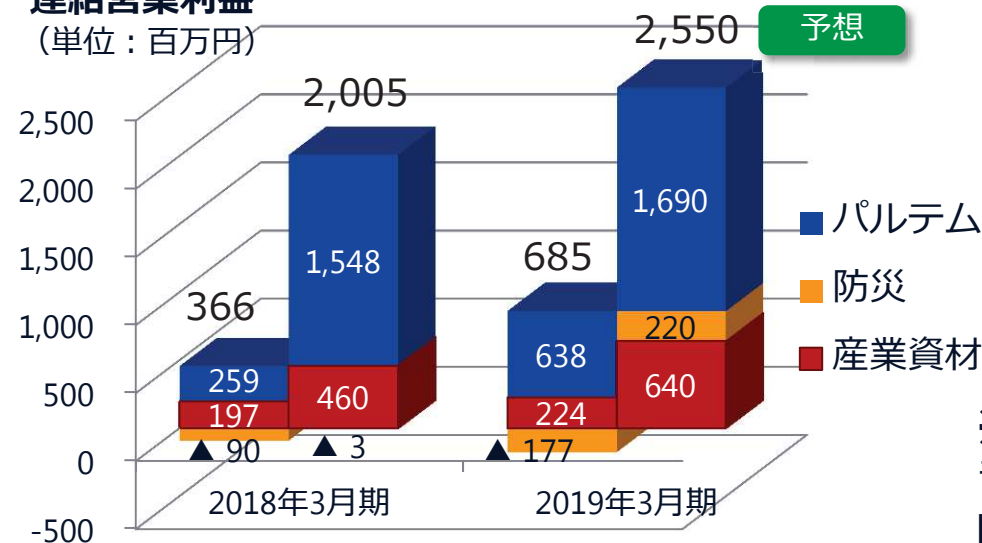
連結売上高

(単位：百万円)



連結営業利益

(単位：百万円)



2019年3月期 第2四半期累計

売上高 (前年同期比 +16.2%)

営業利益 (前年同期比 +87.0%)

・パルテム関連

ライフライン（下水道・上水道・ガス等）の管更生分野が好調に推移したこと、(株)柴田工業の連結が寄与したことにより、増収増益。

・防災関連

防災関連資機材の需要は増加したが、消防用ホースの主力品種の入札案件が下期へ延期となり、減収減益。

・産業資材関連

物流省力化システム関連の受注が減少したが、船舶用ロープの受注がやや増加したほか、オールセーフ(株)の決算期変更に伴い、増収増益。

※パルテム(PALTEM)は、ライフライン(上下水道・ガス等)の管更生事業 Pipeline Automatic Lining system の略称。

設備投資の推移

(単位：百万円)



減価償却費の推移

(単位：百万円)



<設備投資について>

2019年3月期の設備投資は合計約 60 億円となる見込み。

(内訳は、自動車安全部品事業 約 48 億円、機能製品事業 約 6 億円、その他 約 6 億円)

主な投資内容は下記の通り。

- ・ 芦森工業山口(株) 第三工場建設 約 10 億円 (総額 約19億円の内、2019年3月期投資分)
- ・ 自動車安全部品事業 新規受注および内製化等に伴う機械装置 約 20 億円

| (単位：百万円) | 2018年3月期 2Q末 | 2018年3月期末 | 2019年3月期 2Q末 | 前期末比 |
|-------------|-----------------|-----------|-----------------|----------|
| 流動資産 | 24,450 | 27,629 | 24,988 | ▲ 2,641 |
| 固定資産 | 14,010 | 16,649 | 17,729 | 1,080 |
| 資産合計 | 38,460 | 44,278 | 42,717 | ▲ 1,560 |
| 有利子負債 | 9,311 | 12,442 | 13,120 | 678 |
| その他負債 | 15,059 | 17,232 | 15,753 | ▲ 1,479 |
| 負債合計 | 24,370 | 29,675 | 28,874 | ▲ 801 |
| 資本金 | 8,388 | 8,388 | 8,388 | 0 |
| 資本剰余金 | 1,632 | 1,633 | 1,633 | ▲ 0 |
| 利益剰余金 | 3,593 | 4,419 | 3,777 | ▲ 641 |
| 自己株式 | ▲ 14 | ▲ 179 | ▲ 181 | ▲ 2 |
| その他の包括利益累計額 | 439 | 320 | 200 | ▲ 119 |
| 新株予約権 | 3 | 5 | 9 | 4 |
| 非支配株主持分 | 45 | 15 | 15 | 0 |
| 純資産の部合計 | 14,090 | 14,603 | 13,843 | ▲ 759 |
| 負債及び純資産の部合計 | 38,460 | 44,278 | 42,717 | ▲ 1,560 |
| 自己資本比率 | 36.5% | 32.9% | 32.3% | ▲0.6ポイント |

- ・流動資産は、売掛金・完成工事未収入金の回収が進んだこと等により減少。
- ・固定資産は、芦森工業山口(株)にて第三工場を新設したこと等により増加。
- ・その他負債は、買掛債務の支払が進んだこと等により減少。

| | 2018年3月期 2Q累計実績 (百万円) | 2019年3月期 2Q累計実績 (百万円) | 前年同期比 (百万円) |
|-------------------------|-----------------------------|-----------------------------|----------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 3,083 | 2,204 | ▲ 879 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | ▲ 23 | ▲ 2,495 | ▲ 2,472 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | ▲ 2,591 | 460 | 3,052 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 8 | ▲ 37 | ▲ 45 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (▲は減少) | 477 | 131 | ▲ 345 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 3,697 | 2,612 | ▲ 1,084 |

- ・「営業活動によるキャッシュ・フロー」
棚卸資産、法人税等納付額の増加等により、前年同期比でマイナス。
- ・「投資活動によるキャッシュ・フロー」
芦森工業山口(株)において第三工場を新設したこと、前年同期は本社ビル譲渡代金の収入があったこと等により、前年同期比でマイナス。
- ・「財務活動によるキャッシュ・フロー」
短期、長期借入金の増加等により、前年同期比でプラス。

2. 2019年3月期（第119期）予想

2019年3月期は前期比で増収、営業利益ベースで増益の見込み

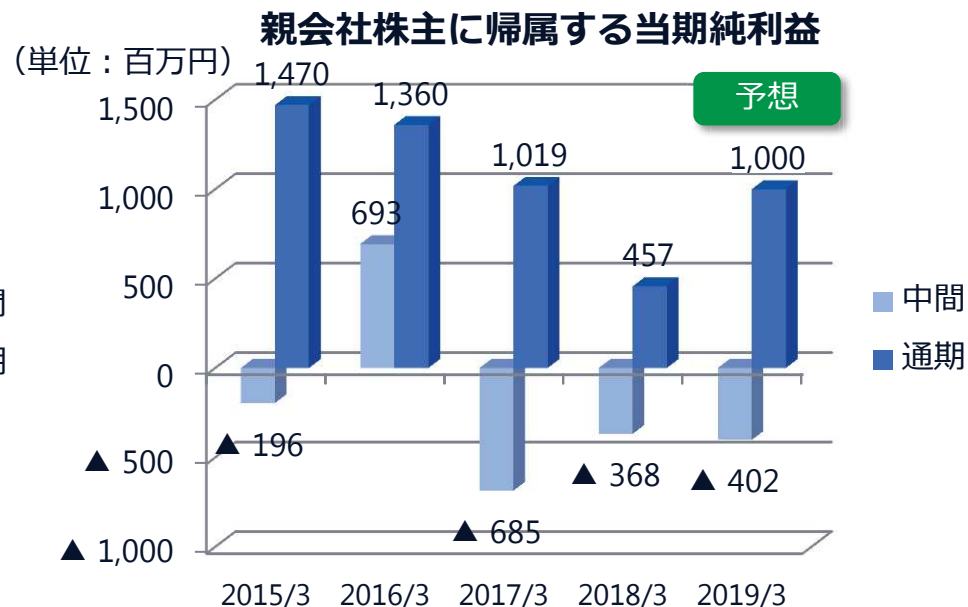
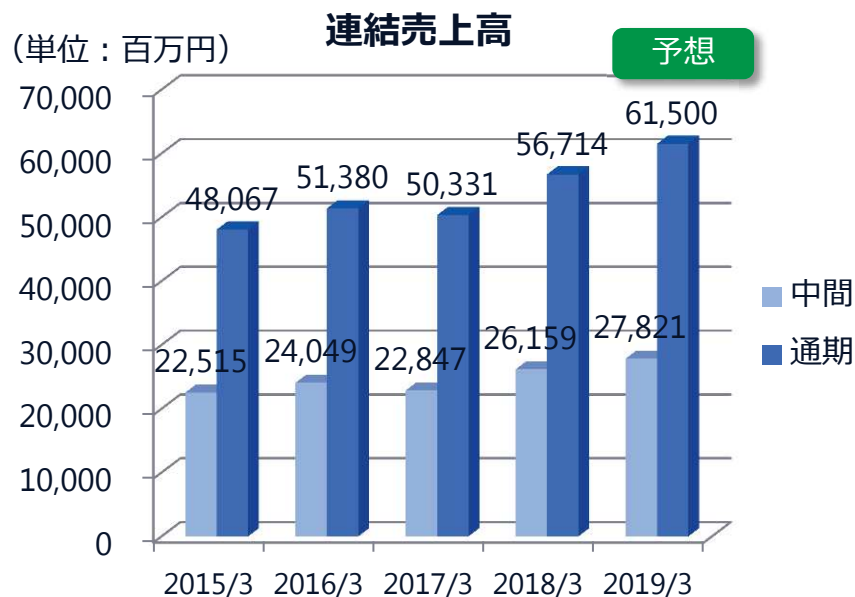
| | 2018年3月期 実績 (百万円) | 2019年3月期 予想 (百万円) | 前期比 | |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------|----------|--------|
| | | | (百万円) | 増減 (%) |
| 売上高 | 56,714 | 61,500 | 4,785 | 8.4% |
| 営業利益 | 1,879 | 2,000 | 120 | 6.4% |
| （営業利益率） | 3.3% | 3.3% | ▲0.1ポイント | - |
| 経常利益 | 1,946 | 1,800 | ▲146 | ▲7.5% |
| 特別損益 | ▲437 | ▲37 | 400 | - |
| 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 457 | 1,000 | 542 | 118.7% |

想定為替レート：110円/US\$, 130円/€

- ・第119期は「第117期～第119期（2017年3月期～2019年3月期）中期経営計画」の3年目。中期計画比で、売上高は5億円の未達、営業利益は10億円の未達となる見込み。前期比では増収、営業利益ベースで増益の見込み。

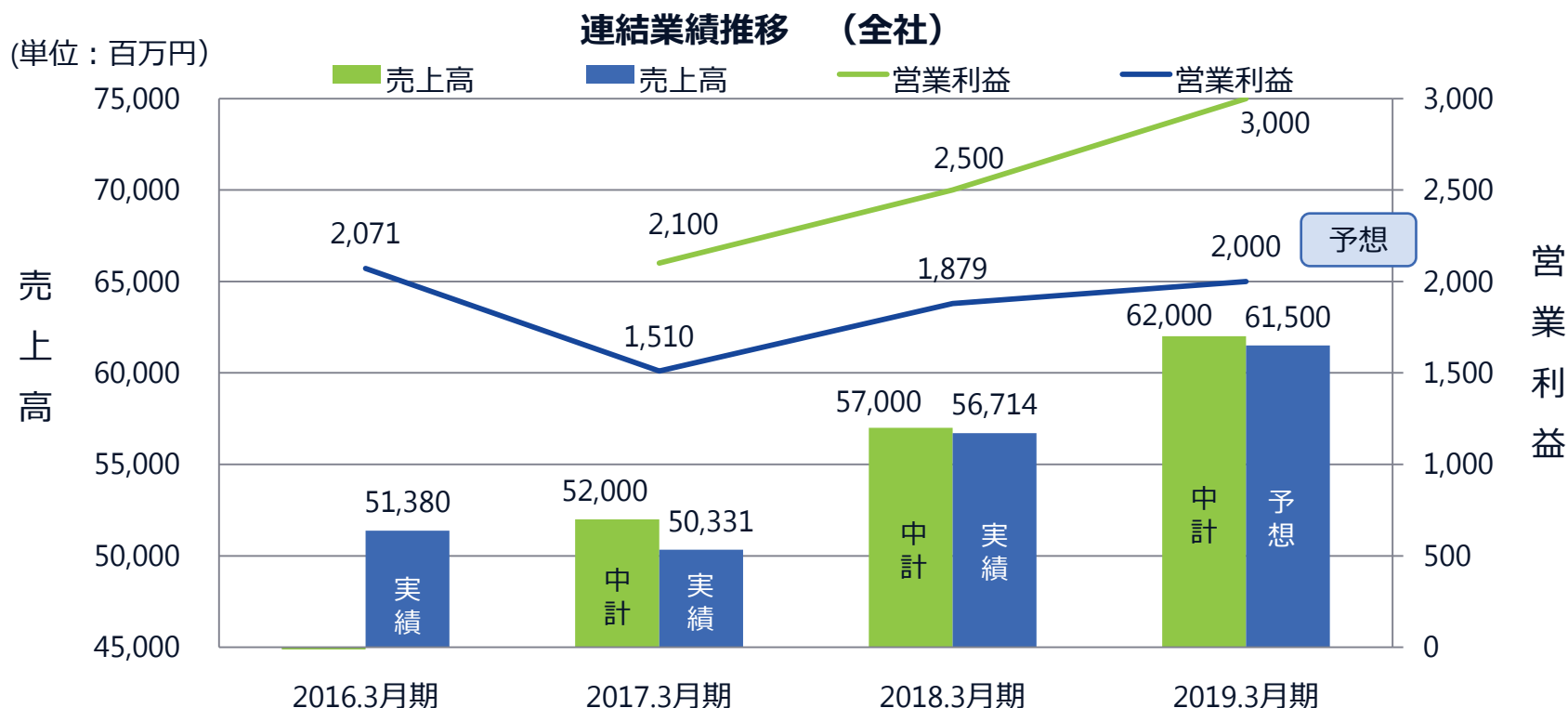
| | | 2018年3月期 実績 (百万円) | 2019年3月期 予想 (百万円) | 前期比 | |
|-------------------|---------|-------------------------|-------------------------|-----------|---------|
| | | | | (百万円) | 増減(%) |
| 自動車 安全部品 事業 | 売上高 | 39,991 | 42,594 | 2,602 | 6.5% |
| | 直接営業利益 | 1,165 | 800 | ▲ 365 | ▲ 31.4% |
| | (営業利益率) | 2.9% | 1.9% | ▲ 1.0ポイント | - |
| 機能製品 事業 | 売上高 | 16,716 | 18,900 | 2,183 | 13.1% |
| | 直接営業利益 | 2,005 | 2,550 | 544 | 27.1% |
| | (営業利益率) | 12.0% | 13.5% | 1.5ポイント | - |
| 不動産収入、 本社経費他 | 売上高 | 7 | 6 | ▲ 1 | ▲ 15.7% |
| | 直接営業利益 | ▲ 1,291 | ▲ 1,350 | ▲ 58 | 4.5% |
| 合 計 | 売上高 | 56,714 | 61,500 | 4,785 | 8.4% |
| | 営業利益 | 1,879 | 2,000 | 120 | 6.4% |
| | (営業利益率) | 3.3% | 3.3% | ▲ 0.1ポイント | - |

- ・自動車安全部品事業は増収ではあるが、上期における直接営業利益の減益が響き、通期では増収減益となる見込み。
- ・機能製品事業は、パルテム関連の好調が継続し、増収増益の見込み。



- ・機能製品事業におけるパルテム関連が好調に推移したことやオールセーフ(株)の決算期変更により、前年同期比で増収となったが、自動車安全部品事業における原材料費および加工費の増加等により、減益となった。
- ・当期の連結業績予想は、売上高について前回予想を据置き、各利益項目について下方修正。
(前回予想は、2018年5月11日開示)

3. 中期経営計画の進捗状況

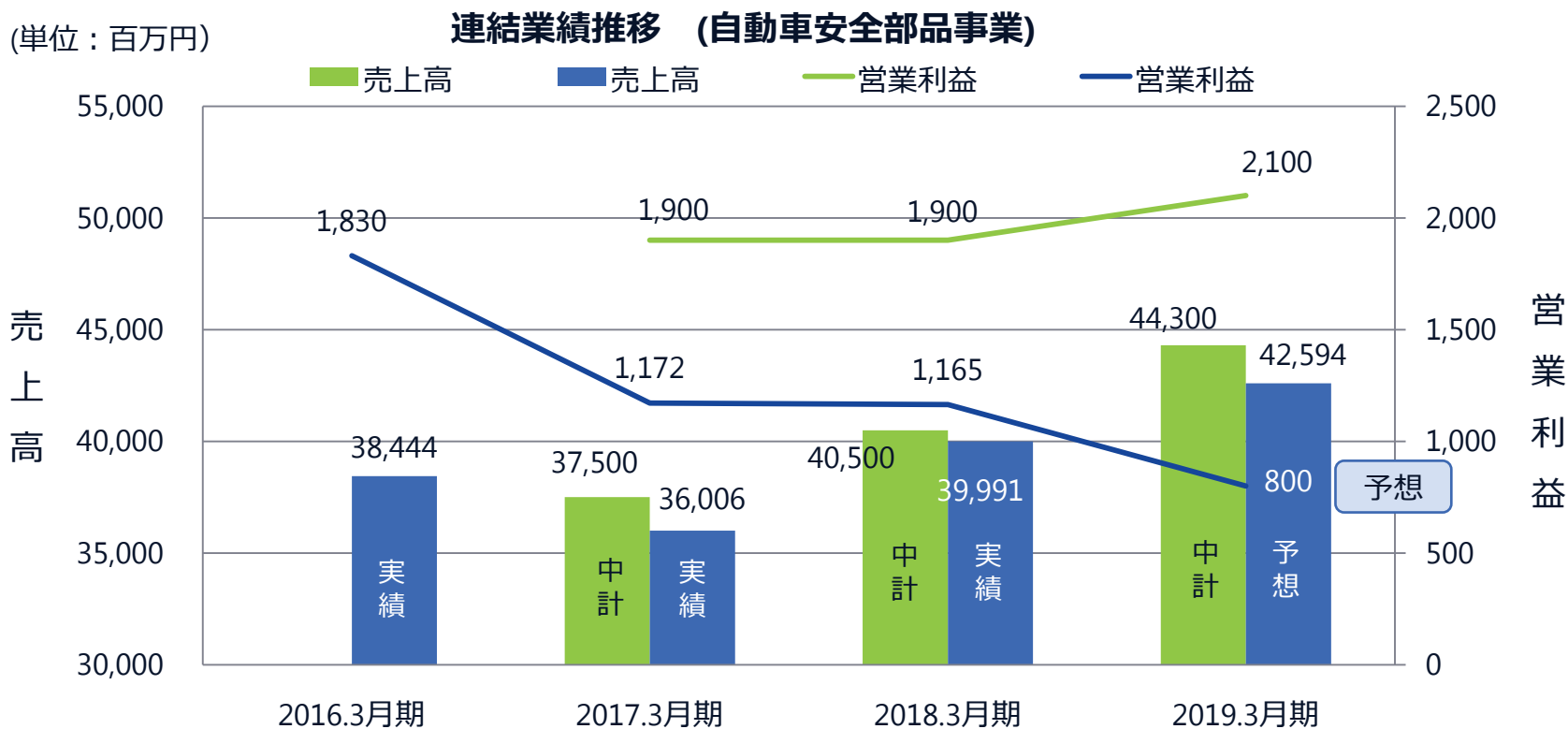


2018年3月期（第118期）実績 中計目標との差 売上高 ▲2.8 億円、営業利益 ▲6.2 億円

✓ 中計目標比で減収減益となったのは、自動車安全部品事業における事業拡大のペースが、緩やかであったため。

2019年3月期（第119期）予想 中計目標との差 売上高 ▲5.0 億円、営業利益 ▲10.0 億円

✓ 中計目標比で減収減益となるのは、自動車安全部品事業における事業拡大のペースが中計を下回る見込みのため。同事業については、各種収益向上施策に取り組むとともに、需要拡大が見込まれる国内外において設備投資を積極的に進めて、中期計画との乖離縮小に努める。



2018年3月期 (第118期) 実績 中計目標との差 売上高 ▲5.0 億円、営業利益 ▲7.3 億円

✓ メキシコの現地法人等、海外の受注が中計よりも減少したため、中計目標比で減収減益となる。

2019年3月期 (第119期) 予想 中計目標との差 売上高 ▲17.0 億円、営業利益 ▲13.0 億円

✓ 国内とメキシコの現地法人において、主要顧客の減産の影響や原材料費および加工費の増加等により、中計策定時と比較して事業環境が厳しさを増している。このため、中計目標比では減収減益となる。

2020年3月期 (第120期) には現在の中計最終年度の数値目標達成を目指す。

中計施策の進捗状況（自動車安全部品事業）

中計施策

1. グローバル生産販売体制の確立
2. 次世代商品の開発強化

進捗状況および対策

1. グローバル生産販売体制

- ① 昨年6月に「欧州事務所」を開設。欧州向け拡販に向け、取引先との関係強化や新規取引開拓に向けた情報収集を進めている。
- ② 当社メキシコ現地法人第二工場は昨年11月に操業開始。北米向けの増産へ対応するとともに、競争力を高めて受注拡大を図る。
- ③ 芦森工業山口株式会社で新たに第三工場を建設し、本年8月に操業開始。主要顧客向けの新規受注を獲得済みであり、生産規模拡大による生産性向上および内製化・FA化の推進で収益力向上を目指す。

中計施策の進捗状況（自動車安全部品事業）

中計施策

1. グローバル生産販売体制の確立
2. 次世代商品の開発強化

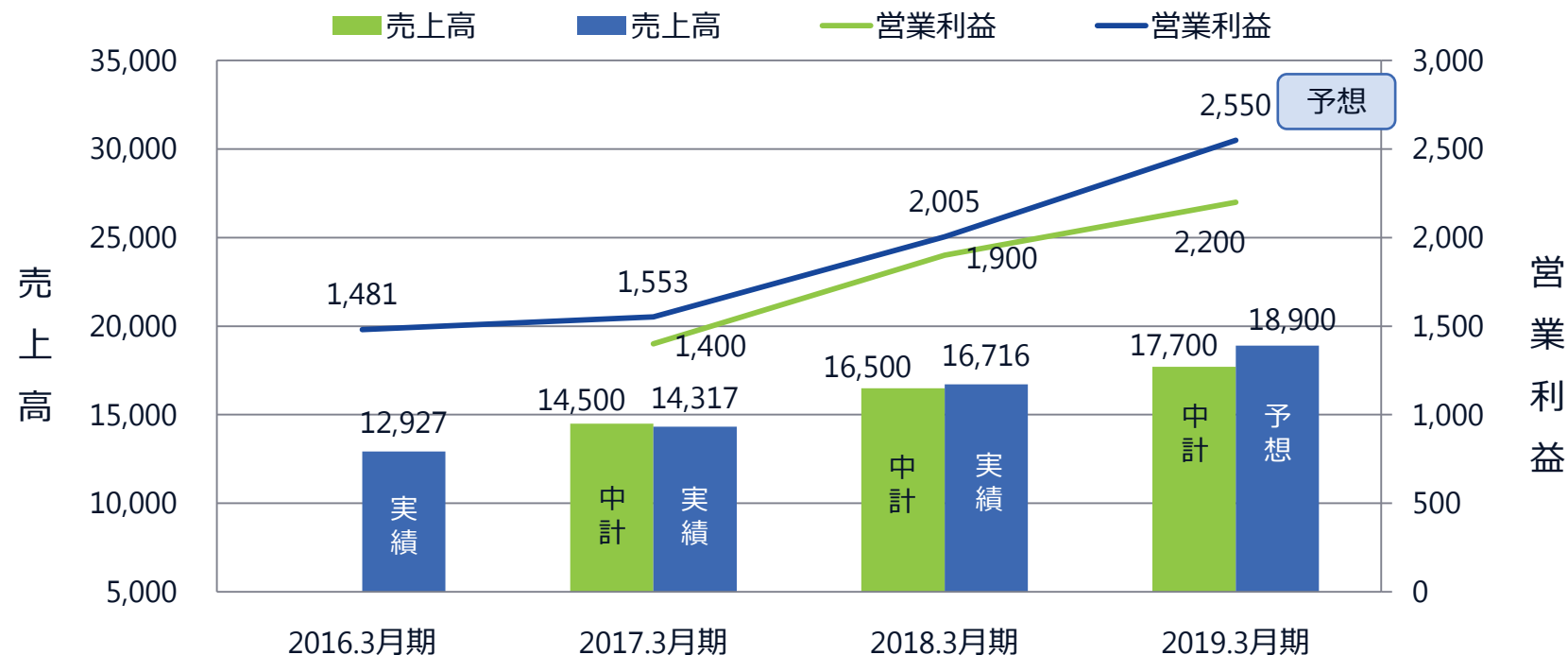
進捗状況および対策

2. 次世代商品の開発強化

- ① カーメーカーとの協働による新評価基準対応レストレイント商品を開発。
 - ・ 頭部傷害値の新評価基準(BriC)に対応した斜め衝突(Oblique Impact)対応デバイス
 - ・ 胸部傷害値低減デバイス
- ② SUV市場拡大を意識した内装品デバイスの開発。

(単位：百万円)

連結業績推移（機能製品事業）



2018年3月期（第118期）実績 中計目標との差 売上高 +2.1 億円、営業利益 +1.0 億円

- ✓ 好調なパルテム関連とオールセーフ(株)の通年寄与が、防災・産業資材関連の不振をカバーし、中計目標を上回った。

2019年3月期（第119期）予想 中計目標との差 売上高 +12.0 億円、営業利益 +3.5 億円

- ✓ 公共インフラ市況の好調によるパルテム関連と、オールセーフ(株)の貢献により、中計目標を上回る見込み（前期比でも増収増益）。

中計施策

1. オールセーフ(株)との連携による収益拡大
2. 海外拡販による事業拡大
3. 次世代商品の開発強化

進捗状況および対策

1. オールセーフ(株)との連携による収益拡大

【営業】海外での土木資材物件について、取り組みを開始

【製造】外製部品の一部内製化開始（物流関連機器）

2. 海外拡販による事業拡大

【産業資材】

- ・ 欧州、アジア地域のロープ^o等外航船舶向け商品の販売体制強化による拡販継続

中計施策

1. オールセーフ(株)との連携による収益拡大
2. 海外拡販による事業拡大
3. 次世代商品の開発強化

進捗状況および対策

3. 次世代商品の開発強化

【パルテム】

- ・パルテム・フローリング工法を応用展開した官民連携新技術研究開発事業「腐食鋼製集水井の内巻補強工法の開発」完了

【防災】

- ・給排水システム（ブルーラインシステム）の実用性検証完了

【産業資材】

- ・タイミングベルト用帆布の適用範囲拡大取組継続
- ・施設園芸分野への取り組み開始

4. トピックス・参考資料

当社は、グループ会社である芦森工業山口株式会社（本社：山口市）において、新工場(第三工場)が完成し、本年8月1日に竣工式・開所式を執り行いました。

これにより、今後も受注拡大が見込まれる自動車用シートベルト・エアバッグ・内装品等において、芦森工業山口株式会社を国内生産の主力拠点到位置付け、グループ生産体制の強化を推進してまいります。

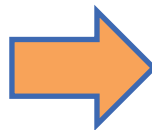
新工場(第三工場)の概要

| | |
|-------------|--------------------------|
| (1) グループ会社名 | 芦森工業山口株式会社 |
| (2) 所在地 | 山口県山口市佐山3番地96 |
| (3) 事業内容 | 自動車用シートベルト・エアバッグ・内装品等の製造 |
| (4) 総投資額 | 約18億円 |
| (5) 敷地面積 | 約24,500㎡ |
| (6) 建屋増設面積 | 約4,800㎡ |
| (7) 稼働開始 | 2018年8月 |



農業・食品産業技術総合研究機構と共和コンクリート工業(株)、芦森工業(株)、芦森エンジニアリング(株)は、老朽化した集水井を容易かつ迅速に補強する工法を開発しました。補強工法はパルテム・フローリング工法を応用しています。
(詳細は芦森工業ホームページ「ニュースリリース」をご覧ください。)

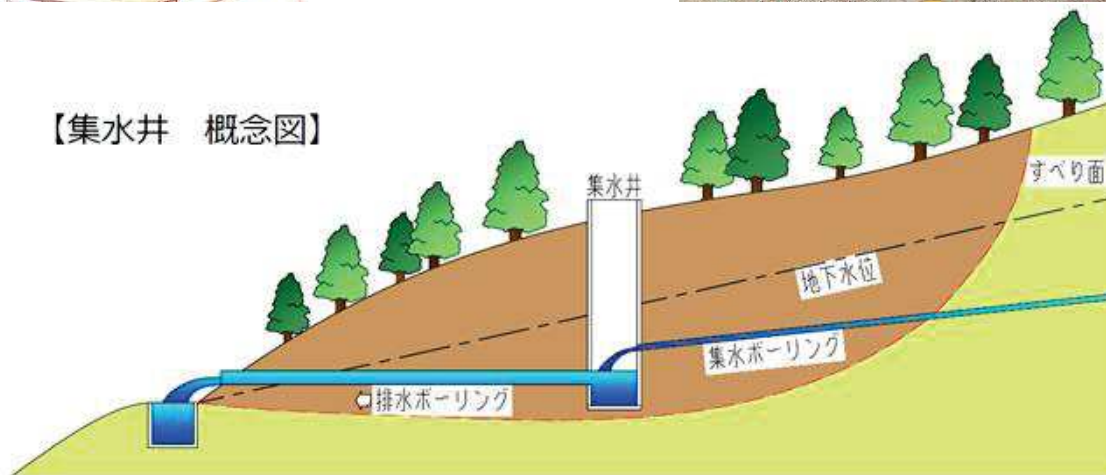
施工前



施工後



【集水井 概念図】



製品のご紹介（自動車安全部品事業）



シートベルト



電動シェード



エアバッグ



セパレーションネット

事業内容

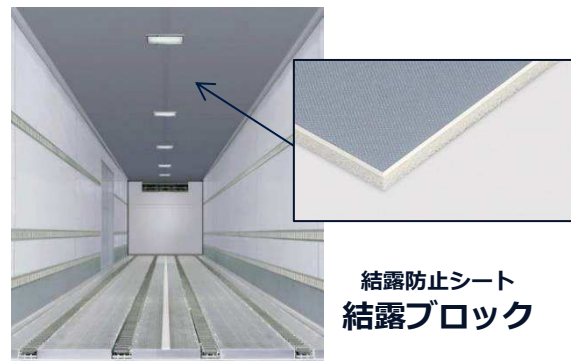
自動車用シートベルト、エアバッグ、ステアリングホイールおよび内装品などの製造・販売

製品のご紹介（機能製品事業）

ブルーライン
システム
(給排水システム)



パルテム・フローリング工法
(管路更生工法)



結露防止シート
結露ブロック

事業内容

管路更生工法「パルテム」用材料・資機材および土木資材などの製造・販売ならびに管路更生工事、消防用ホース、産業土木用ホースおよび防災関連資機材の製造・販売、産業用繊維資材（合繊ロープ・帆布など）、物流省力化システム関連、および墜落阻止器具

芦森グループ

社是・M V V（Mission・Vision・Value）について

- 社是**
1. 信用を重んじ、堅実を旨とする
 2. 人の和と開かれた心で活力ある企業を築く
 3. 創意を生かし、社業を通じて社会に貢献する

Mission “安全・安心・快適”の提供で、社会に貢献する

Vision “安全・リニューアール”分野で技術をリードする
世界に通じる“Small but Excellent Company”

Value “信用”
“グッド・コミュニケーション”
“チャレンジ精神”



ASHIMORI
POWERED BY
INNOVATION

本資料中の業績予想および見込みについての記述は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。

IRに関するお問い合わせ先

芦森工業株式会社 広報・IR室

TEL : 06-6105-1680

MAIL : ir_madoguchi@ashimori.co.jp

HP : <http://www.ashimori.co.jp>